



飯地小学校 HP

夢をもち、懸命に生きる子 ～進んで学ぶ子・思いやりのある子・元気な子～

夏になると思い出せるように

校長 原田 三千代

私は毎年夏になると、必ず思い出すことがあります。それは祖父との思い出です。

祖父の家には、大きな立派な仏壇がありました。その周りには、何枚かの遺影が飾ってあったのですが、その中に軍服を着た祖父の兄のものがありませんでした。夏になると、祖父は必ず戦争の話をしていました。最後には必ず感極まって怒り出すので、その話を聞くのが怖くて仕方ありませんでした。「戦争なんてやるから兄貴は死んだんだ!…」最後は必ずそう言って、相手の国のことや、政治のことや、いろいろと難しい話をするので、子どもだった私には正直おっくうな時間でした。でも、子どもながらに「戦争は怖いこと、つらいことなんだな」ということだけは分かりました。

この夏も、広島・長崎の原爆の日、そして終戦記念日があり、黙とうをささげる度に祖父の顔が頭に浮かびました。でも、怒っている顔ではありません。穏やかな顔です。戦争への怒りをどこにぶつけたらよいのか分からず感情的になっていた祖父が一番伝えたかったであろう「平和への思い」は、今も私の中にしっかりと残っています。

戦争に関わる話を聞くことができた私は、とても幸せだったのだと思います。苦しみを、悲しみをぶつけてくれた祖父のおかげで、経験はしていなくても「戦争はだめだ、平和が一番だ」と心の底から実感できるからです。私と同じような思いをもっている人はどのくらいいるのか、あと何年か経ったらこんな気持ちが日本人の中から消えてしまうのだろうか…こんなことを考えていたら、何とも言えない不安な気持ちになりました。毎年夏になると平和のありがたさを感じる…こんな子どもたちを育てていくことも、私たち大人の大切な役割になってきています。

最後になりましたが、2学期がスタートし、13人の元気な声が飯地小に帰ってきました。顔つきも体つきもぐんと成長して見えるのは、13人それぞれが何かを感じ、何かを得た夏休みだったからだと思います。思い出話を聞くのが楽しみです。

この夏休みの間に熊本県では大きな地震があり、千葉県では大きな水害がありました。多くの尊い命が失われました。そして今も大変な思いをしてみえる方がたくさんみえます。そんな皆さんへ思いを馳せることを忘れず、今日こうして始業式を平穩に迎えらることに感謝をし、13人が力を合わせ、そして13人それぞれに力をつけられる2学期を目指していこうと、子どもたちに話をしました。

2学期も引き続き、本校の教育活動にご理解とご協力をよろしくお願いします。

飯地小学校運営協議会コーナー「壮健クラブ・学校運営協議会・PTA 環境整備作業」 8月23日(日)

～地域ぐるみで育てたい姿『豊かな体験を通して、ふるさと飯地への愛着と誇りをもつ』～

残暑が厳しい中、今年も環境整備作業が行われました。毎年この8月末に、地域の多くの皆様のお力をお借りし、校庭の整備をしていただいております。今年は約130名の方にご協力をいただき、無事に実施することができました。本当にありがとうございました。きれいになったグラウンドで、子ども園・小学校の合同運動会に向けての練習がスタートします。きれいなグラウンドにいただいた地域の皆様への感謝の気持ちを忘れず、練習に励んで参ります。

今年の運動会は10月17日(土)を予定しております。多くの皆様にご参観いただけることを願っております。

